

今こそ考えよう 共生（インクルーシブ）教育 第2回
2016/3/6 立花高校 齋藤真人校長 講演会
アンケート集計

■回答数 男性 19名 女性 42名 計 61名

■年代 10～70歳代

■所属 ご本人、ご家族、元教員、民生・児童委員、立花高校保護者、NPO 法人職員・フリースクールスタッフ、障がい関係の家族団体

■講演会の感想、インクルーシブ教育に関する意見、当会へのメッセージ等

一人の不登校生として、あのよう思ってくれている人がいてくれることがとても嬉しかったです。たくさんの生徒さんの話を聴いて、第三者の方の話に振り回されるのではなく、自分の意志で動いていくことが大事なんだなと思いました。とても良い経験になりました。

このような素晴らしい講演を聞いたことがありません。肩の力を抜いて、子どもを愛したいと思います。有難うございました。

自分の子育てについて考えさせられました。もっと子どもを愛していかないといけないです。

素晴らしいお話でした。感動しています。有難うございました。
共生の時代が来ることを心から祈り、この活動を応援します。

私も不登校な時期がありました。現在は正社員で働いています。しかし恋人や母に否定的な言葉を今言っている自分に気づきました。共生社会をつくると大きなことは言えませんが、私から変わっていきたいです。

とても面白く、お話も上手なので、ずっと理解でき、とても充実した時間を持つことができました。有難うございました。

以前から、先生のお話が素晴らしいとお聞きしましたが、今日は自分の仕事の立場と親としての立場から、いろいろ感じ、楽になり、嬉しく、また考えさせられました。

障がいの特性を理解してくれ、その方のできる事を探してくれる理解者を地域社会に増やしていくことが大切だと思います。私たち大人が、いろんな方に伝えていくことが大切だと思います。

今日は本当に素晴らしいお話を有難うございました。元気が出て、また明日からゆっくり、元気に過ごしていきたいです。

何度も涙しながら、しかし楽しく聞きました。今日はこの高校の姿勢をどの小中学校にも実践してもらいたい、地域でもやっていかななくてはと感じました。私も残された時間が少なくなっているのですが、「立花高校」の先生の話聞いて、本当に良かったと思います。有難うございました。

出来ないことを嘆くより、出来ていることを認めよう・・・自分の周囲、生活全体を見回して、あー、そうだな、と思いました。子育てが終わり、反抗期がなかった（と思っていた）一人息子が30歳になって反抗期・・・でも、それでいいんだ・・・と思います。どんな人にもドラマがあり、それを認め合う地域づくりに努めたいと思います。

高齢になった親が、不安定な子ども、障がいのある子どもの先行きを心配しなくてよい世の中にするには、どうすればいいのか・・・ぜひ行政の仕組み、行政への要望、地域で上手くいっている例を聞いた

いです。
齋藤校長すばらしい！！笑いあり、涙あり、で時間があっという間でした！！人間性がお話の中になじみ出ておられると感じました。 インクルーシブ教育を目指すならば、インクルーシブな大人がふえること、そういう社会になることこそ大切！！という、先生のお考えに大賛成です！！
何事も当たり前の事なんてない。みんな頑張ってる、それを認める大事さに改めて気づかされました。時間が全然長く感じなく、楽しくて濃厚な時間でした。有難うございました。
現在、関わっている障がいのある青年、その家族、そして職員との今までの過ごし方（対応）と置きかえて聞くことができました。 明日からのインクルーシブ教育につながる 生き方を自身でやっていきたいと感じました。有難うございました。
以前から立花高校の校長先生の姿勢に関心がありました。今日は念願かなってお話を聞くことができました。笑って泣いて・・・本当に感激しました。有難うございました。
顔がむくむ程、涙が流れました。花粉症だとごまかしたいと思います。 いろんな個性があると社会が認めるようになればいいと思います。「いいねー」「すごいねー」という言葉が個性を伸ばすと信じています。 素敵な講演会でした。有難うございました。
「この子にしかできないことがある」「生き方」を認められる社会づくりをしなければならない、という努力の方向性を確認できた。
「不登校」というものの考え方は周りの大人が決めてしまっているということを感じさせられました。とても共感することが多かったように感じました。
本当にずっと涙が流れながら笑いながらのお話でした。たくさんたくさん反省させられ、心打たれて、たくさんの勇気ももらった今日でした。
現実社会を変えるのが大人の役目
以前から校長先生の話をお聞きしたいと思っていましたが、聴いて良かったと思います。 今、不登校の児童を受け持っていますが、もう少し児童の気持ちを考えたいと思います。（私が頑張り過ぎているかもしれないので）
ずっと聞きたいお話だったので、今日（今このタイミング）で聞けて、私にとっては本当にタイムリーで今までの自分や家族、同僚、生徒たちとの関係を考え、見直す良い機会になりました。
3回目の齋藤先生のお話でしたが、何度も泣けました。厳しさも大事だと思います。でも、生きているというだけでも奇跡。一人ひとりを大切にできる社会になると良いですね。作ってみたいです。 可能であれば、はなまる学習塾の高濱先生の講演が聞きたいです。障害児教育もしています。忙しい方なので、難しいとは思いますが・・・
一人ひとりの存在意味を大切にすることを改めて心に刻みます。
響きました。
涙と笑いありの1時間半、今日来てよかったです。校長ちゃんありがとうございました♡
非常に心に響くお話でした。頑張っていることを認める姿勢を大事にして行きたいと思います。 本日は有難うございました。

立花校長 今回の講演会も楽しかった
ずっと齋藤校長のお話をお伺いしたかったので嬉しかったです。うわさ以上の素晴らしいご講演でした。ありがとうございました！ 地域の小学校で、特別支援学校との交流が盛んなところがあればその先生から交流のお話が聞きたいです。 室内に受付があったので、先生のお話が始まってからも話が聞こえてきて、先生のお話が聞こえづらいことがありザンネンでした。受付はお部屋の外に設置されてはどうかと思いました。
心が楽になりました。 共生の世の中であることが、まず、なんですね。
素敵なはなしではありましたが、きれい事のようにも受け取ります。 外から聞いたのですが、立花を出ても高卒認定にならないんでしょ。「子どもを身を挺して守る」なんて軽々しく言わないでほしい。個々を卒業できなかった子も何人も知ってます。
とても良い内容で来てよかったです。大変ためになりました。考えがかわりました。泣きすぎて疲れしました。
楽しかったです。もう一度聴きたいです。 頑張ってきた会へ感謝と今後も頑張ってください。
本当に良かったです。素晴らしいお話をありがとうございます。 本当に良い教育なのか、遅れのある子が無理やガマンやきつくならなければ良いなと思います。 とっても良い機会を有難うございます。 多くの方に聞いて欲しいと思います。一人ひとりの中の気持ちを変えることで、インクルーシブな社会になるのだということがぼんやり見えました。
今回はとっても楽しく、又泣きました。 立花高校最高です。
自分の子育て時代に当てはまることがあってもっともだと思いました。
息子に対する言葉をもう少し考えてから言おうと思いました。 勉強しないことを気にしすぎているかな・・・と反省しました。 誰もが生きていきやすい社会にならなければいけないんだと思いました。
よかった。発達障がいの子どもの対応について詳しく聞きたかった。
がんばっていることを認めること、当たり前が当たり前でないというキーワードをいつも意識して、やさしい社会をつくるために生きています。 前回の講演会もそうですが、いろいろ話をきくことで、いろんな宝物が心に増えていきます。 どんなことでも、たくさん聞きたいです。 素晴らしい講演会をありがとうございます。
すばらしかったです。来て本当に良かったです。有難うございました。
自他を認めることのハードルを上げ過ぎている社会に対して、何ができるのか、改めて感じました。 「違う」ことを『悪い』ことにしてしまう背景、多様な人たちが精一杯生きている事例を積み重ねていく会になればと思います。 話を伺うだけでなく共に考えてまいりましょう。

「自然体であること」の難しさを感じました。
子どもはもう成人して家を離れています。自分なりに必死で育てていったつもりですが、今日はそれを振り返り、反省を含め新たな気持ちで子どもに接したいと思います。
70歳の女性です。立七高校のこと知りました。日本語に素晴らしい言葉があると感動しました。孫に、「よう頑張ってるな・・・」と言ってあげたいと思います。
「頑張れ」という言葉に責任を持つ、という言葉が印象に残りました。 日常の中、やはり、事あるごとに「頑張れ」と励ましの言葉として使っていましたが、元々、本人たちは一生懸命頑張っていることを改めて感じ、頑張っていることをしっかりとほめていきたいと思いません。 大変楽しく、勉強になる講演会でした。有難うございました。
10年位まえに中学校で講演を聴き、とても素敵な学校があるんだと思っていましたら、今日また講演会の案内を聞き、是非行きたいと思い来ました。今、発達障がいの中1の子どもを持ち、高校選びも子どもをわかっただけの立花高校に行かせたいと考えていました。講演会を聞いて、やっぱりこの学校だと決心がつかしました。私も肩の力を抜いて子どもと頑張っていきます。
私は以前より、齋藤先生のことばに救われていました。今、中1の娘が不登校になりました。今回また齋藤先生に力をいただきました。 私は笑って娘と接して行こうと思いました。有難うございました。
齋藤先生のお話を聞くのは2回目ですが、私自身発達障害の子どもを抱えていて、できないことをどうできるようにしていくかを頑張り過ぎずに進んでいこうと思います。 齋藤先生のお話を教育関係者の多くの方に聞いていただき、大人が認め合うことをすべきだと思いました。 共生教育の後見会は大変勉強になります。是非、次回も参加したいです。有難うございました。
齋藤校長のお話、4回目でしたが、今日もうんと泣いてしまいました。聞くたびに（根幹は同じでも）新しいエピソードがありました。 ふくおかでのほかに広げることができそうな具体的実践を聞いて、変化につなげたいです。 学校、社会双方に働きかけられるといいと思います。
涙涙でした。教員として生徒の頑張りをどれだけ思いやれていたのか・・・ 多様性を受け入れるインクルーシブ社会がインクルーシブ教育につながると
涙と笑いであっという間の1時間45分でした。「刺身しょうゆ」を思い出しながら考え、悩み、でもループは作らず、楽しく子どもと過ごしていけたらと思いました。 インクルーシブ教育とは、先生や学校にしてもらうことばかりを想っていましたが、自分の心もちなんだと気づかせていただき、今日は本当に良かったと思います。 これからもこのような機会があれば参加を市、障がいのある人の幸せな暮らしについて考えていきたいと思えます。有難うございました。
言葉の力、使い方、学ばせていただきました。 自分自身がリラックスする事、心にしみました。 本日の会、別用で欠席の予定でしたが、別用がなくなり、参加できて良かったです。
実に有意義なものであった。

<p>インクルーシブ教育と関連するかどうかはわからないが、末松氏の講演は良いのではないのでしょうか。応援しています、頑張ってください。</p>
<p>「一所懸命がんばる」という言葉は日本語にしかないと聞いたことがあります。樺ることが美德である社会は（頑張れな）弱い人には冷たいのかなと反省しました。</p>
<p>自分が信念（というほどのことでもないけど）が、間違っていないという気持ちになりました。どんな人も頑張っている・・・はっと気づかされました。社会を変えるためには・・・どうしたら良いか。今ある社会の中で生きやすい子どもが増えれば良いと思います。</p> <p>有意義なお話を聞いて感謝です。</p> <p>今日からまた「頑張らずに」生きたいと思います。</p>
<p>①社会全体→会社・地域活動などが時を急ぐ風で親がストレス</p> <p>②ストレスの親に育てられている子ども</p> <p>精神障害者に関する話を聞きたい</p>
<p>私も不登校の経験があります。当時は勉強も部活もしたくない気持ちでいっぱいでした。この「勉強」に関して、今日齋藤さんがおっしゃっていた「勉強をさせる」強制は、したくなくなる気を上げると思います。今、自分でしたい勉強を見つけました。</p>
<p>一言ではとても語れません。恥ずかしながら、ずっと涙が止まりませんでした。私は福祉系の専門学校の教員ですが、自分自身のあり方を根本から見直す必要があると感じました。</p> <p>変わらなければいけないのは社会のあり方、それを待っているのではなく、自分のフィールドを通してそれぞれが働きかけていくことが大事だと思いました。</p> <p>素晴らしい内容でした。是非、様々な形でつながっていきたいと思っています。</p>